

同種と、普通、混同されて居る事と思ふ。

20. 蟻と間違へられたトラカミキリ。

トラカミキリ (Clitini) の類で、蜂に擬態したと稱せられるものは決して少くない。然し、蟻と同様の関係にあるものはない様に思ふ。余は曾て動物學雜誌第 475 號(1928)に書いた日本産甲蟲類の記(二)に於て、臺灣恒春にてクロトゲアリと誤られて觀察した一種のトラカミキリを報じた事があるが、其の時、學名は同定し得ないで居た。頃日其の種は *Perissus kankauensis* SCHWARZER (1925)である事が分つたので、とりあへず報告して置く。

オホフタホシマグソコガネの産地

昨年本誌第 3 卷第 3 號の甲蟲類雜感中へオホフタホシマグソコガネ *Aphodius elegans* ALLIBERT に就て書いて置いたところ、學友立石堯氏並びに安松京三氏から下記の通りの御知らせがあつたので兩氏の御好意を謝しここに紹介しようと思ふ。立石氏からは「若松附近の路上の牛馬の糞中に多數ゐる。又、北海岸(玄海方面)を 4 里、南海岸(洞海湾方面)を 2 里許り歩き、附近の山も可成り注意したが、この類ではオホフタホシマグソコガネが最も多いやうである。糞の 1 山に 40-50 頭ゐるものさへあつた。」とあり、安松氏の通信では「福岡附近では平地に多い種類で、秋によく馬糞中で採集される」とあつた。要するに福岡、若松附近に於ける Dung-beetle 中では最も普通に産するものに屬すると思はれる。(Jan. 1930, 神谷一男)

ヨツスヂトラカミキリの加害植物

ヨツスヂトラカミキリ *Chlorophorus quinquefasciatus* CASTELNAU et GORY は本州・四國・琉球・臺灣から知られてゐる種であるが、本州に於ては西方の暖地に産する。

余は 1927 年 7 月山口縣伊保木で數頭の本種を得た。其時何れも櫻を害して居た。本種の加害植物は從來一も知られて居なかつたから、新加害植物として報告して置く。(瀧尾増夫)